



- イノベーションへの新たな挑戦 -
大日本住友製薬株式会社
【証券コード:4506】

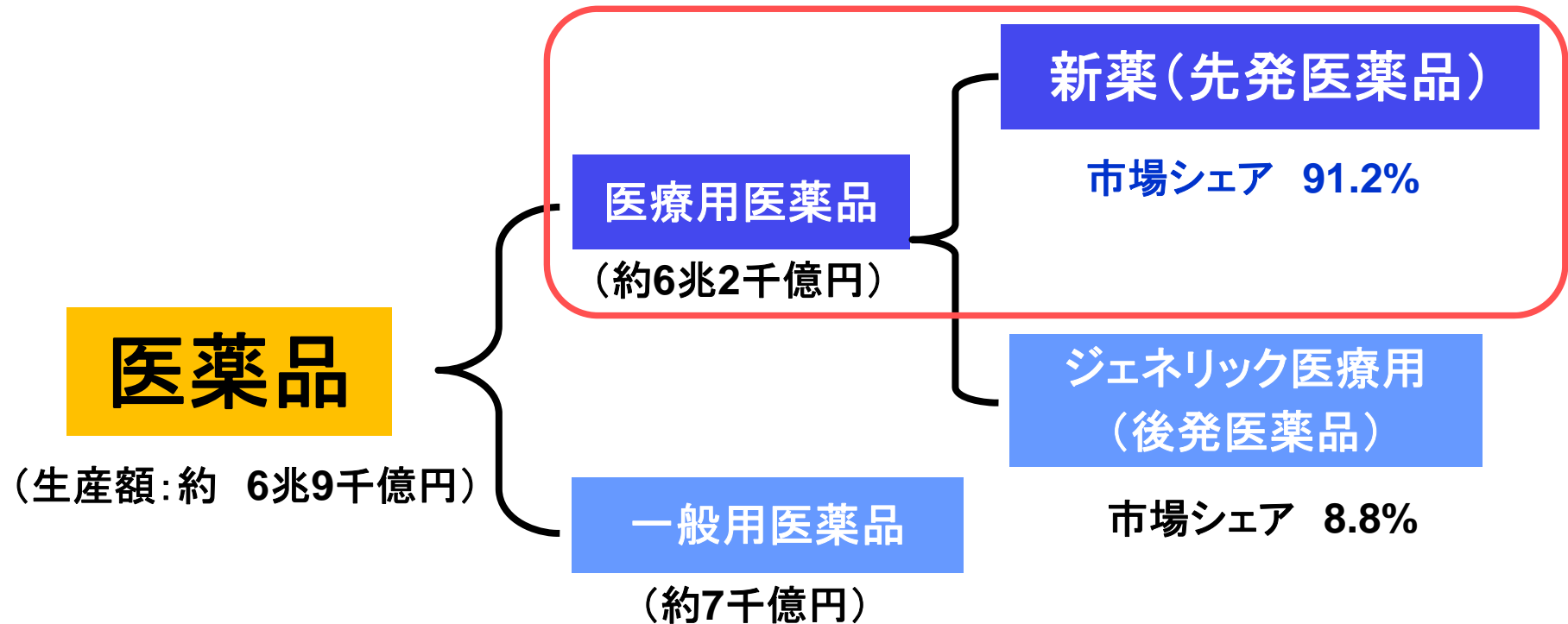
SMBC日興証券 神戸支店
第1部 会社説明会

2015年8月28日
コーポレート・コミュニケーション部長
渡辺晶子

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. 大日本住友製薬の概要
3. 成長戦略
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. 業績予想と株主還元

日本の医薬品の構成

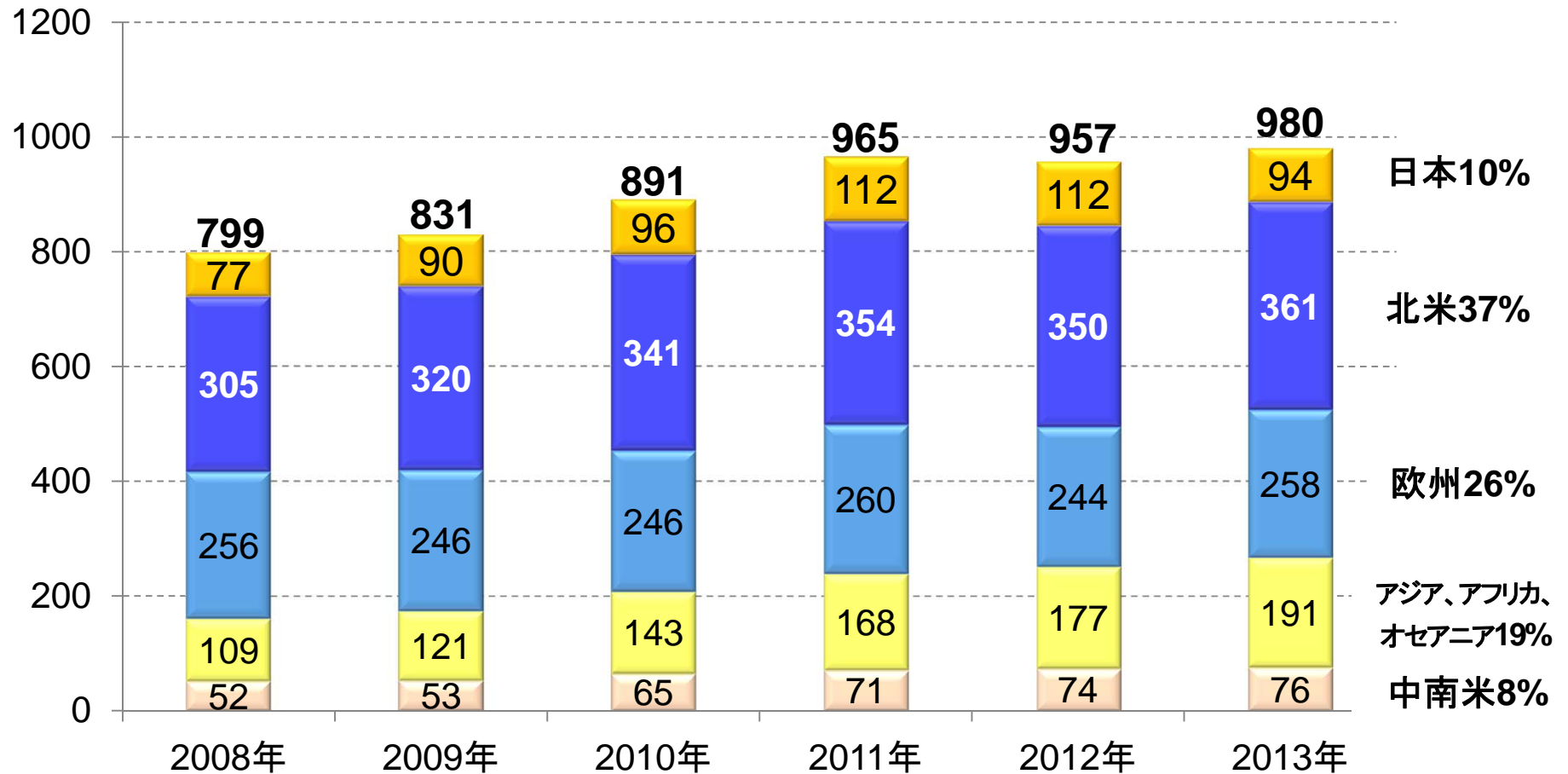


(出典:生産額 2013年厚生労働省 薬事工業生産動態統計
市場シェア(金額ベース) 2011年 厚生労働省HP)

世界の医薬品市場

1位は北米、2位は日本

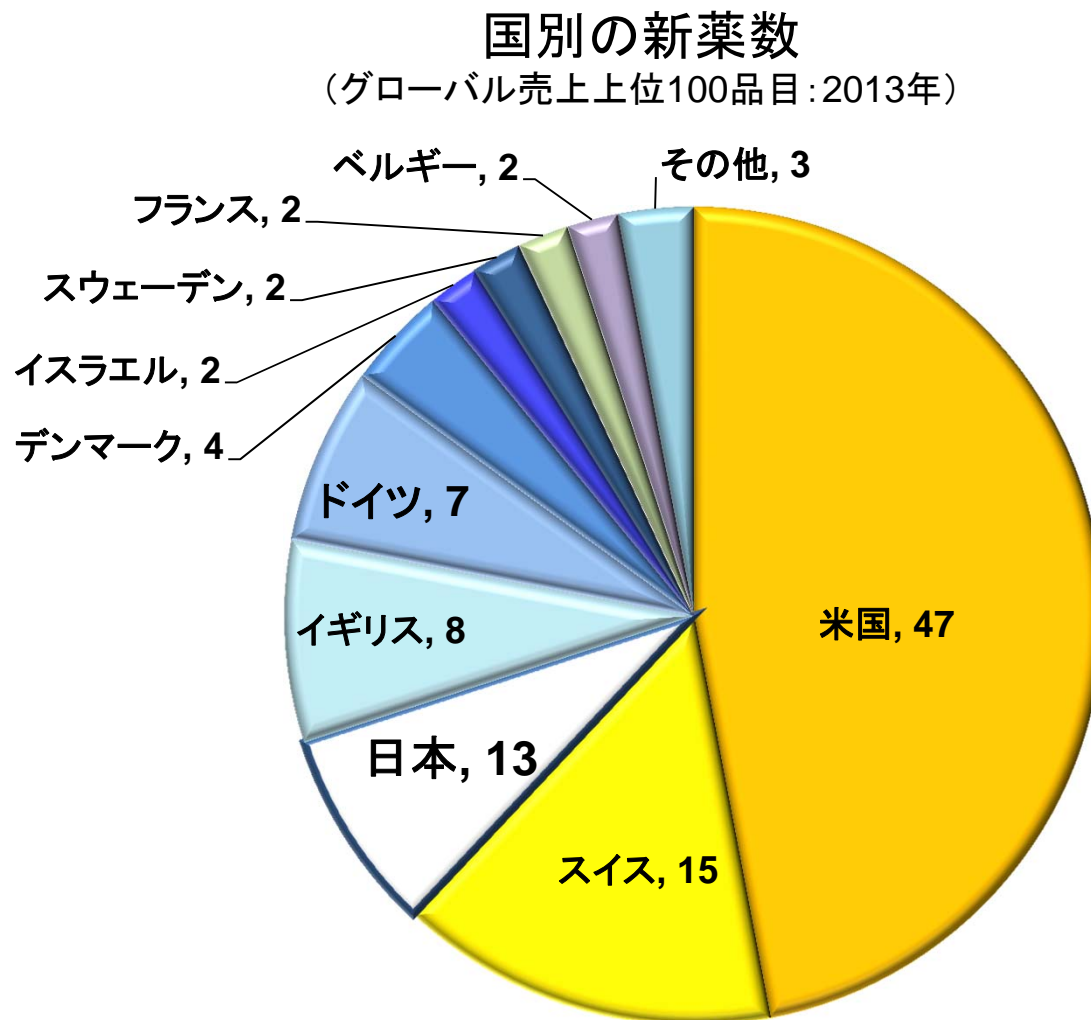
(10億ドル)



(出典: 日本製薬工業協会 DATA BOOK 2015、©2014 IMS Health、IMS World Review(無断転載禁止))

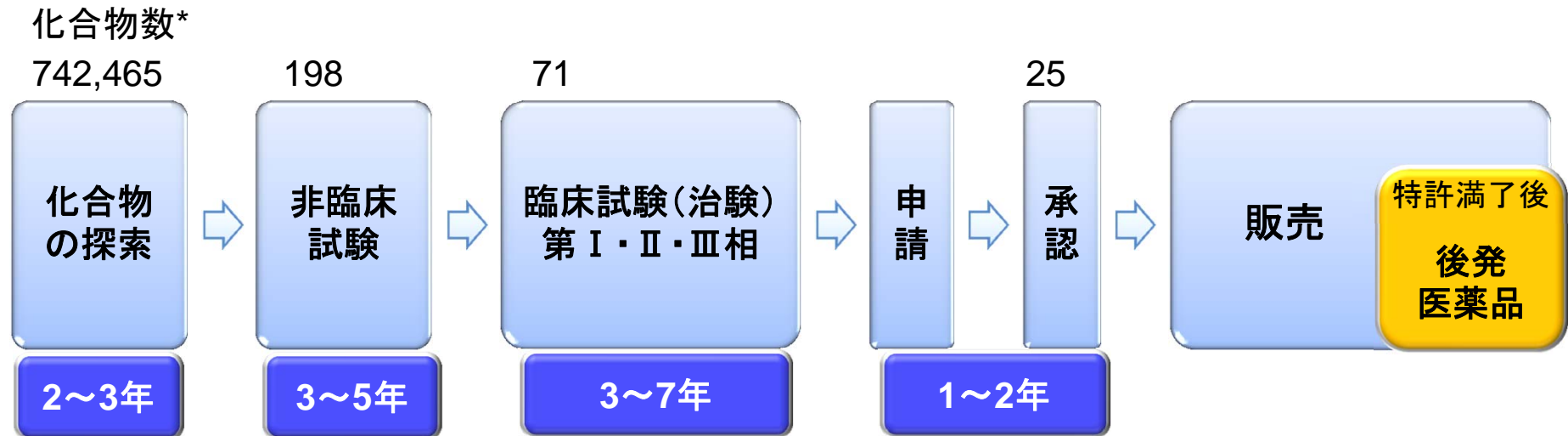
世界における新薬創出ランキング

日本は世界で第3位の新薬創出国



新薬の研究開発プロセス

新薬の成功確率 1/30,000



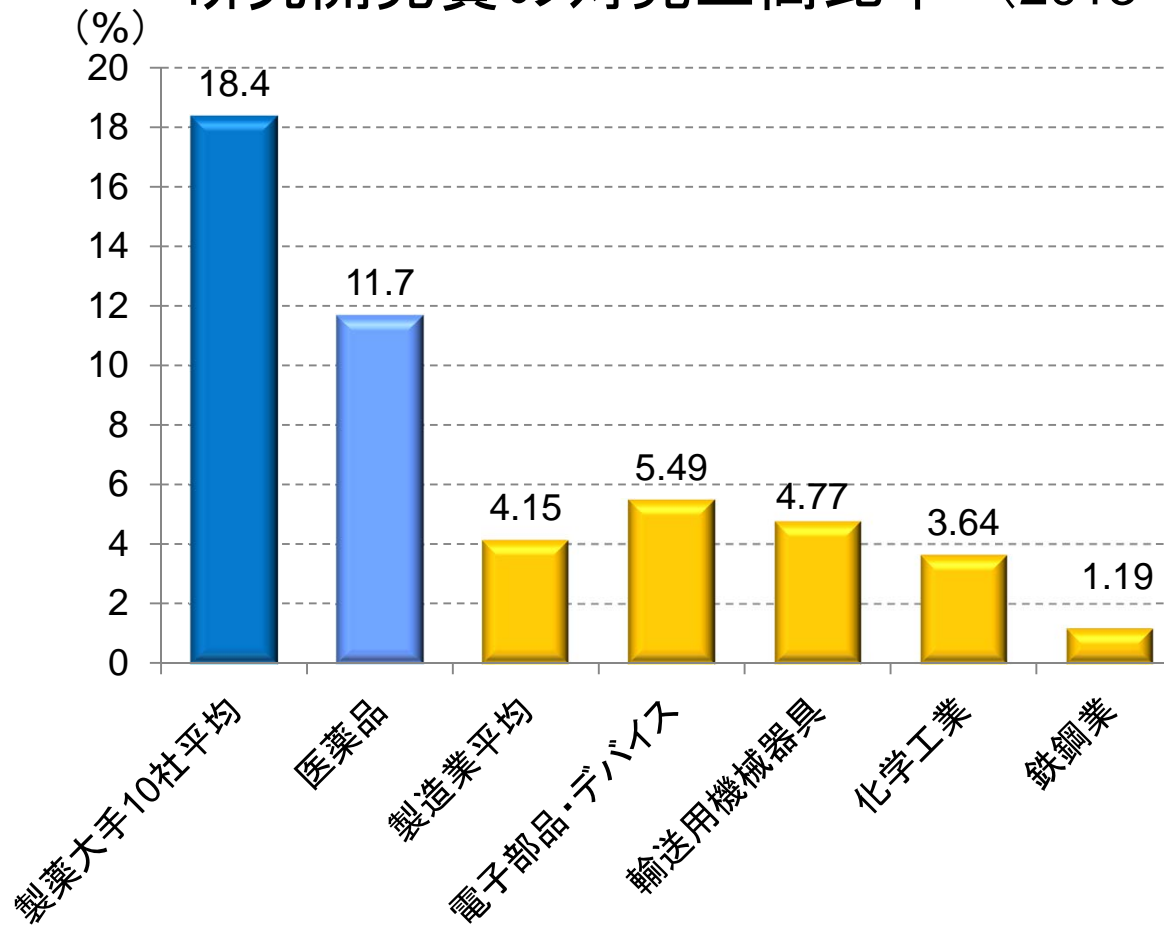
研究開発期間: 9~17年

*化合物数は製薬協研究開発委員会メンバーのうち内資系企業の数字(2008~2012年)

研究開発費

多額の研究開発投資

研究開発費の対売上高比率（2013年）



製薬大手10社

平均研究開発費:

1390億円

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. **大日本住友製薬の概要**
3. 成長戦略
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. 業績予想と株主還元

大日本住友製薬の沿革

旧大日本製薬

1897年（明治30年）5月14日設立
大阪・道修町の有力薬業家21名により、
大阪製薬株式会社が設立

1898年 大阪・海老江に製薬工場を設置
東京にあった半官半民の大日本製薬会
社を吸収合併し、社名を大日本製薬株式
会社に改称

旧住友製薬

1944年 住友化学工業株式会社（現在の住友
化学株式会社）が医薬品部門に進出

1984年（昭和59年）2月6日設立
住友化学の医薬事業の研究、開発、製造部
門と、住友化学の医薬品の販売総代理店
であった稲畑産業株式会社の医薬販売部
門を継承して、住友製薬株式会社が設立

2005年10月 誕生



人々の健康で豊かな生活のために、研究開発を基盤とした
新たな価値の創造により、広く社会に貢献する

会社概要

合併期日

2005年10月1日 (大日本製薬と住友製薬が合併し発足)

資本金

224億円

代表者

多田 正世 (代表取締役社長)

本社所在地

大阪本社: 大阪府中央区道修町2-6-8
東京本社: 東京都中央区京橋1-13-1



大阪本社

連結従業員数

6,872名 (2015年6月30日現在)

連結売上高

3,714億円(2014年度) 国内6位*



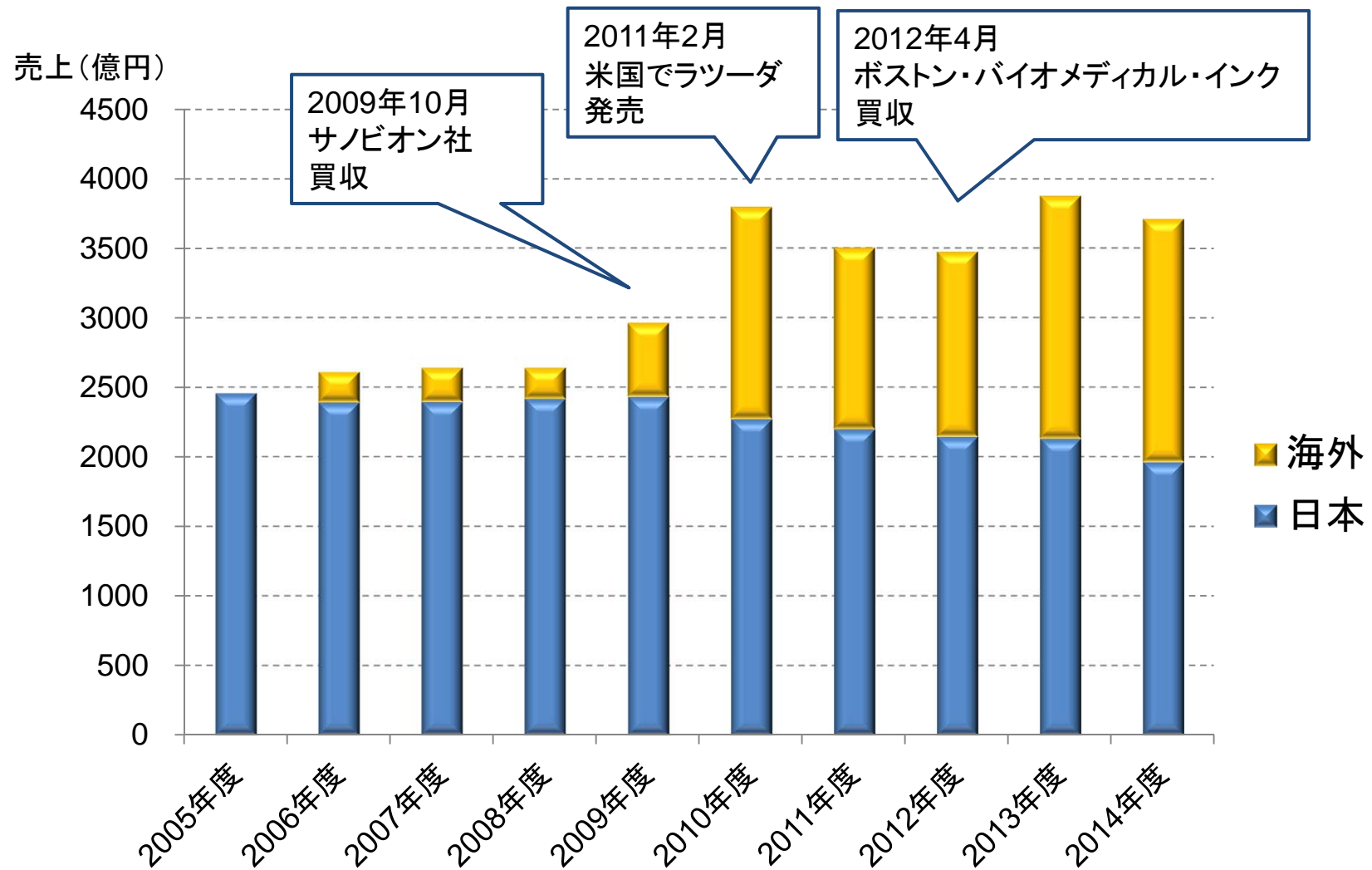
東京本社

*: 国内内資系企業の売上高ランキング

(引用元: IMS World Review Executive 2015より 2014年 worldwide sales & regional market share Top 100の日本企業を抜粋)

10年の歩み(業績推移)

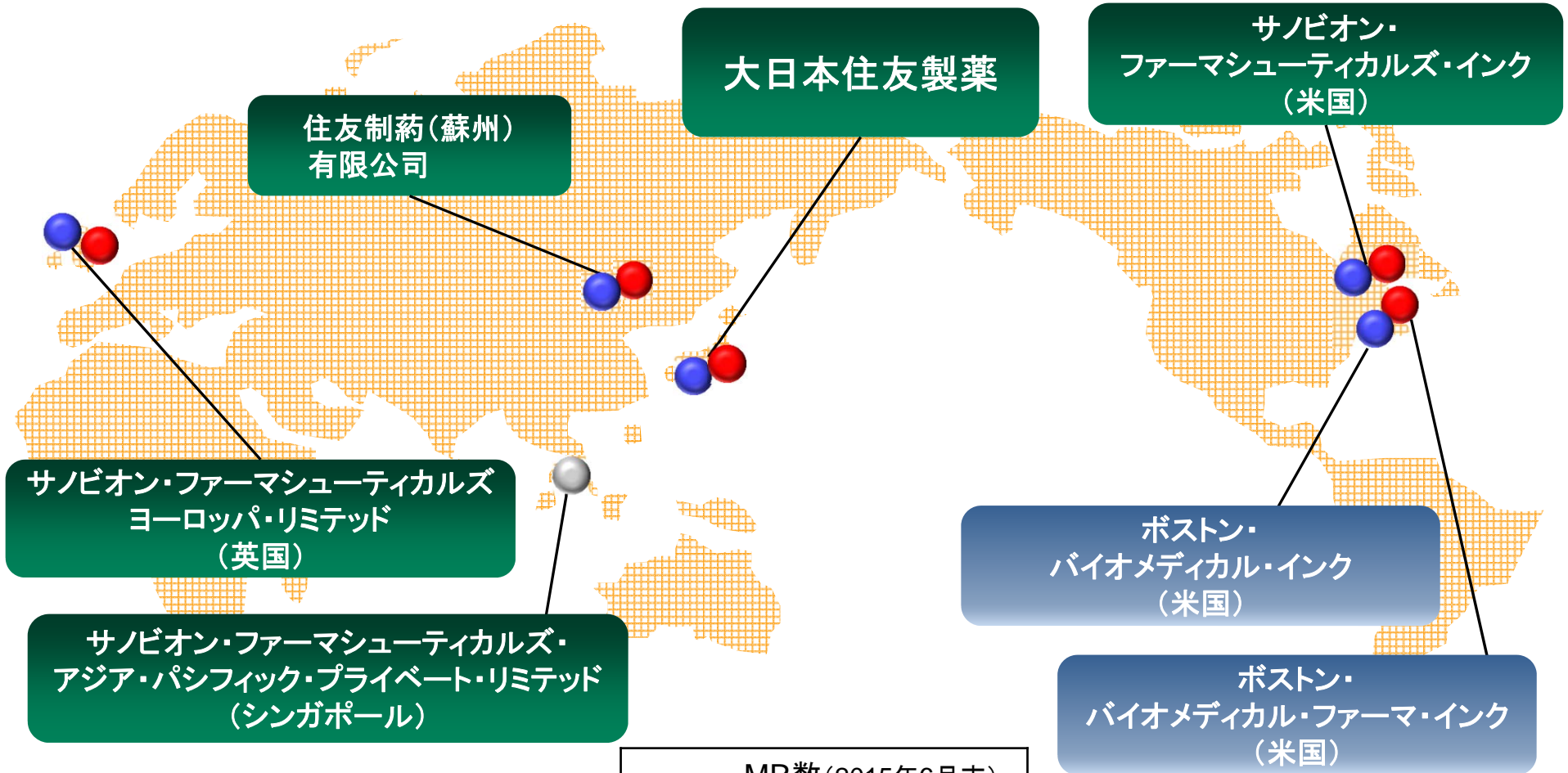
グローバル化を推進



事業展開地域

●: 開発部門

●: 販売部門



MR数(2015年6月末)

日本	1,350 名
北米	680 名
中国	350 名

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. 大日本住友製薬の概要
- 3. 成長戦略**
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. 業績予想と株主還元

第三期中期経営計画（2013~2017年度）

中期ビジョン

イノベーションへの新たな挑戦

1. グローバルレベルで戦える研究開発型企业
2. 最先端の技術で医療に貢献

基本方針

1. 強固な国内収益基盤の確立
2. 海外事業の収益最大化とさらなる事業拡大
3. グローバルレベルのパイプラインの充実
4. CSRと継続的経営効率の追求
5. 挑戦的風土の確立と人材育成

第三期中期経営計画（2013~2017年度）

	2014年度 (実績)	2015年度 (予想)	2017年度 (目標値)※
売上高	3,714億円	4,010億円	4,500億円
内医薬品事業	3,307億円	3,586億円	4,000億円
営業利益	233億円	270億円	800億円
EBITDA	431億円	478億円	1,100億円
研究開発費	713億円	895億円	850億円
為替レート	109.8円/\$	120.4円/\$	100.0円/\$

※ 2017年度の経営目標について見直し、研究開発費および為替レートを変更(2014年10月)

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. 大日本住友製薬の概要
3. 成長戦略
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. 業績予想と株主還元

日本（1）

3つの領域に集中

営業リソースの選択的集中、ハイブリッド・マーケティングの促進

循環器・糖尿病領域

高血圧症 アイミクス アバプロ
アムロジン

糖尿病 メトグルコ シュアポスト

精神神経領域

統合失調症 ロナセン

パーキンソン病 トレリーフ

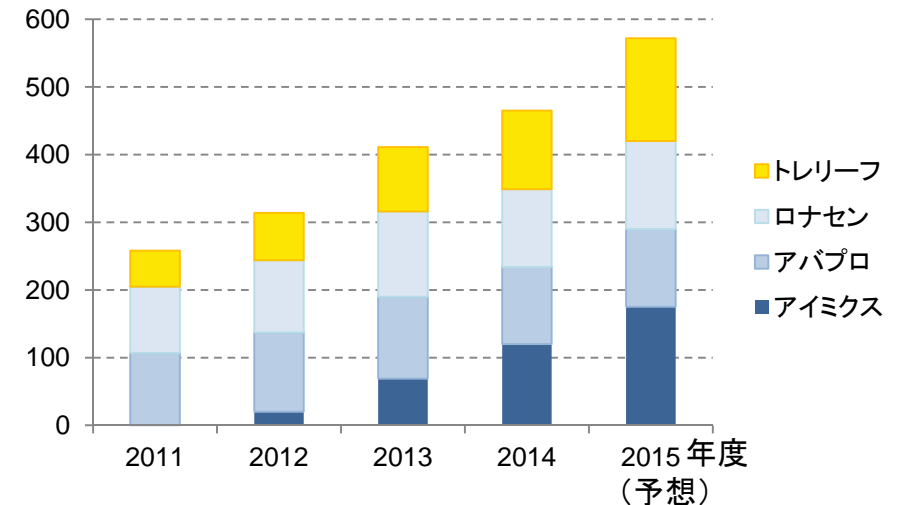
スペシャリティ領域

肝細胞がん ミリプラ

深在性真菌症 アムビゾーム

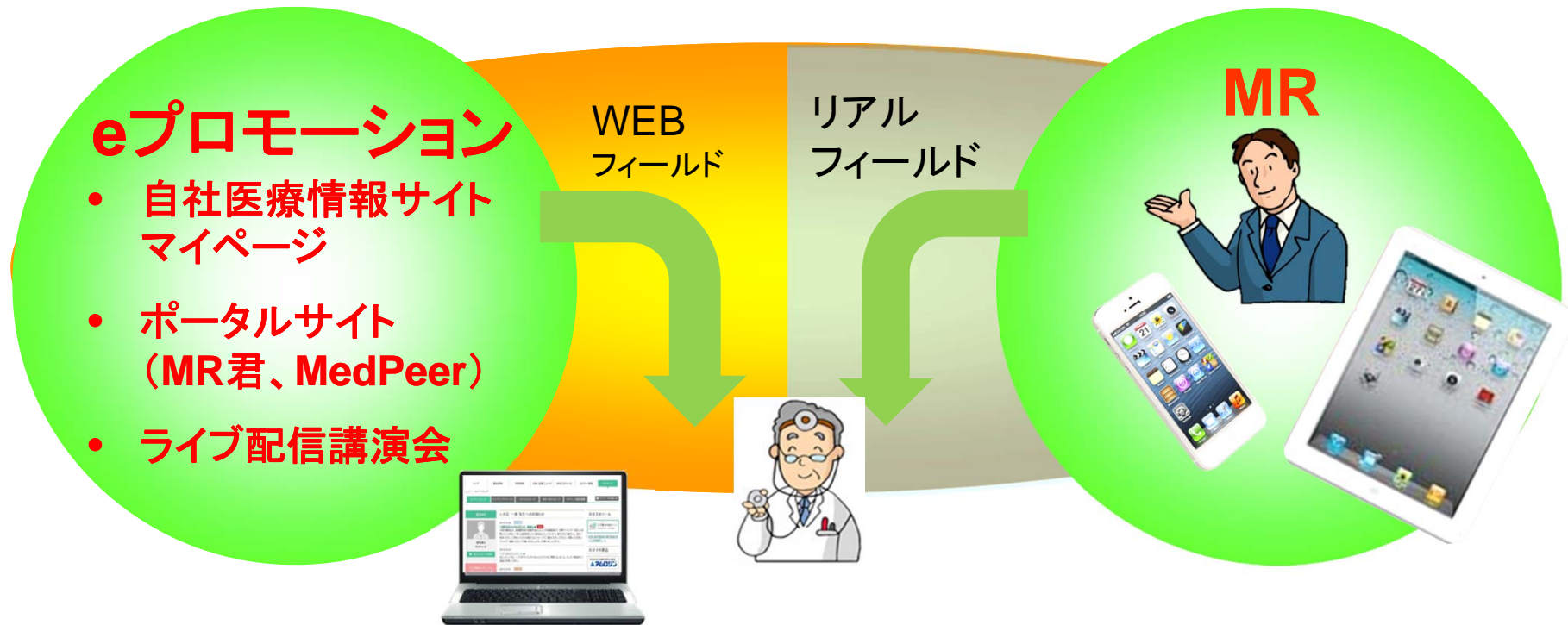
ファブリー病 リプレガル

（億円） 戦略品の売上



日本 (2)

ハイブリッド・マーケティング



北米（サノビオン社）

2つの領域に強み

呼吸器領域

COPD **ブロバナ**

喘息 **ゾペネックス**

喘息・アレルギー性鼻炎 **シクレソニド**

精神神経領域

統合失調症 **ラツーダ**

双極 I 型障害うつ

てんかん

アプティオム

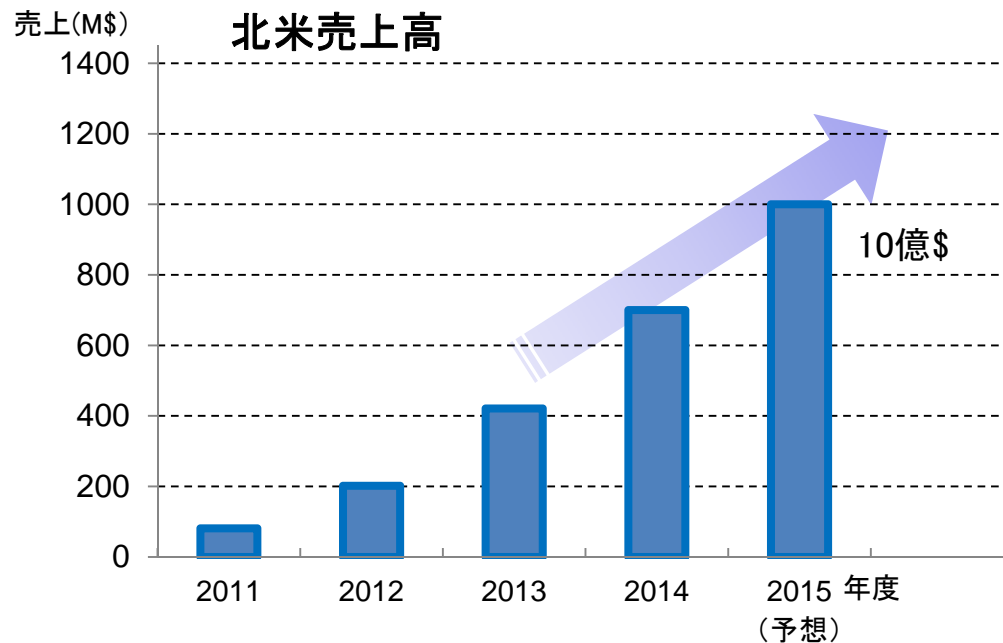
不眠症

ルネスタ



非定型抗精神病薬 ラツーダ

ブロックバスターに向けて着実な伸長



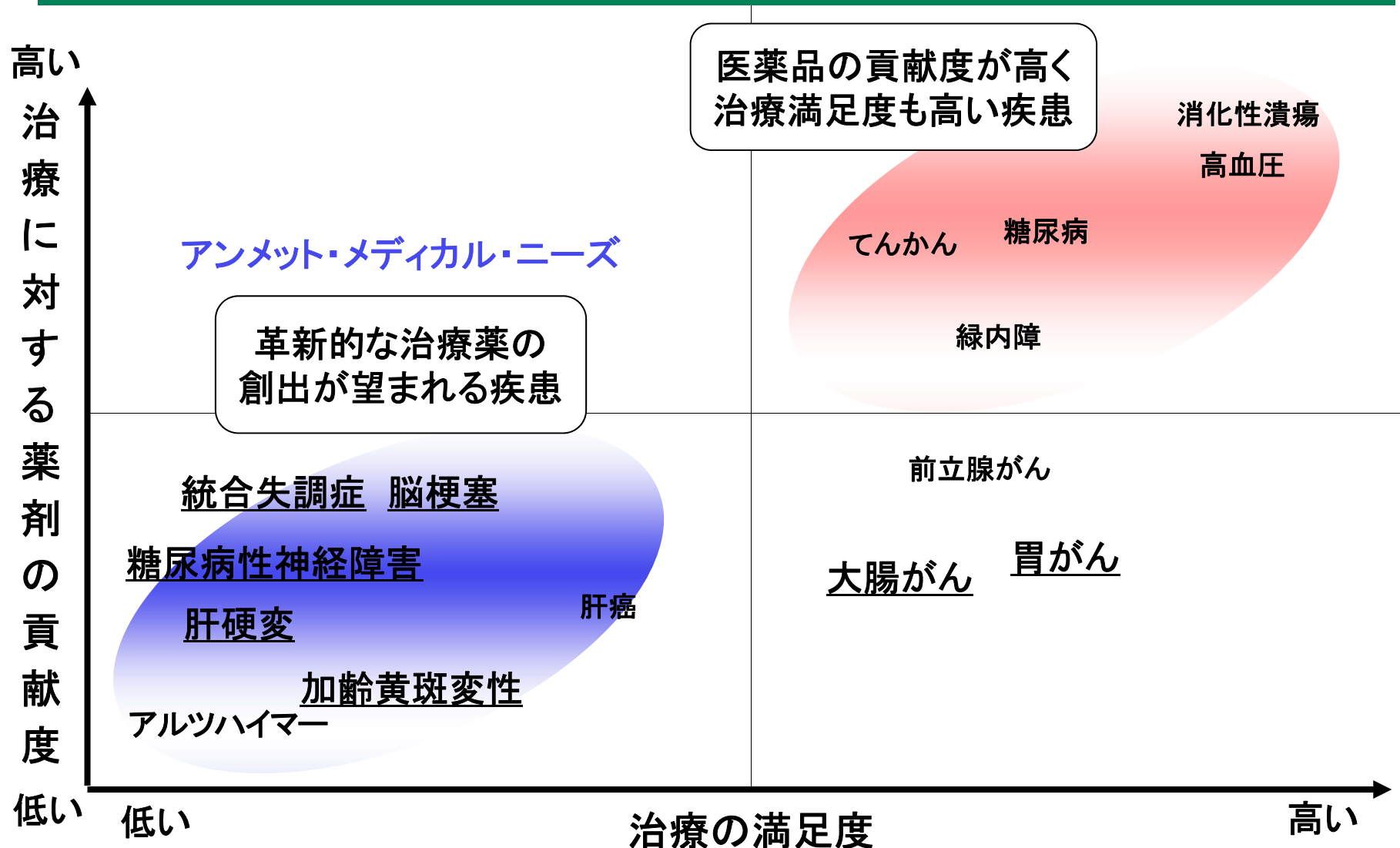
- 北米: 「統合失調症」「双極 I 型障害うつ」の承認を取得し、順調に販売を拡大
- 欧州: 「統合失調症」の承認を取得し、英国自社販売。欧州展開について検討中
- 日本: 双極性障害(第Ⅲ相試験実施中)。統合失調症(今後の開発方針検討中)
- その他: 中国(2015年度申請予定)、オーストラリア(豪州セルヴィエと販売提携) 東南アジア、南米等での提携を含めた販売地域の拡大を目指す

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. 大日本住友製薬の概要
3. 成長戦略
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. 業績予想と株主還元

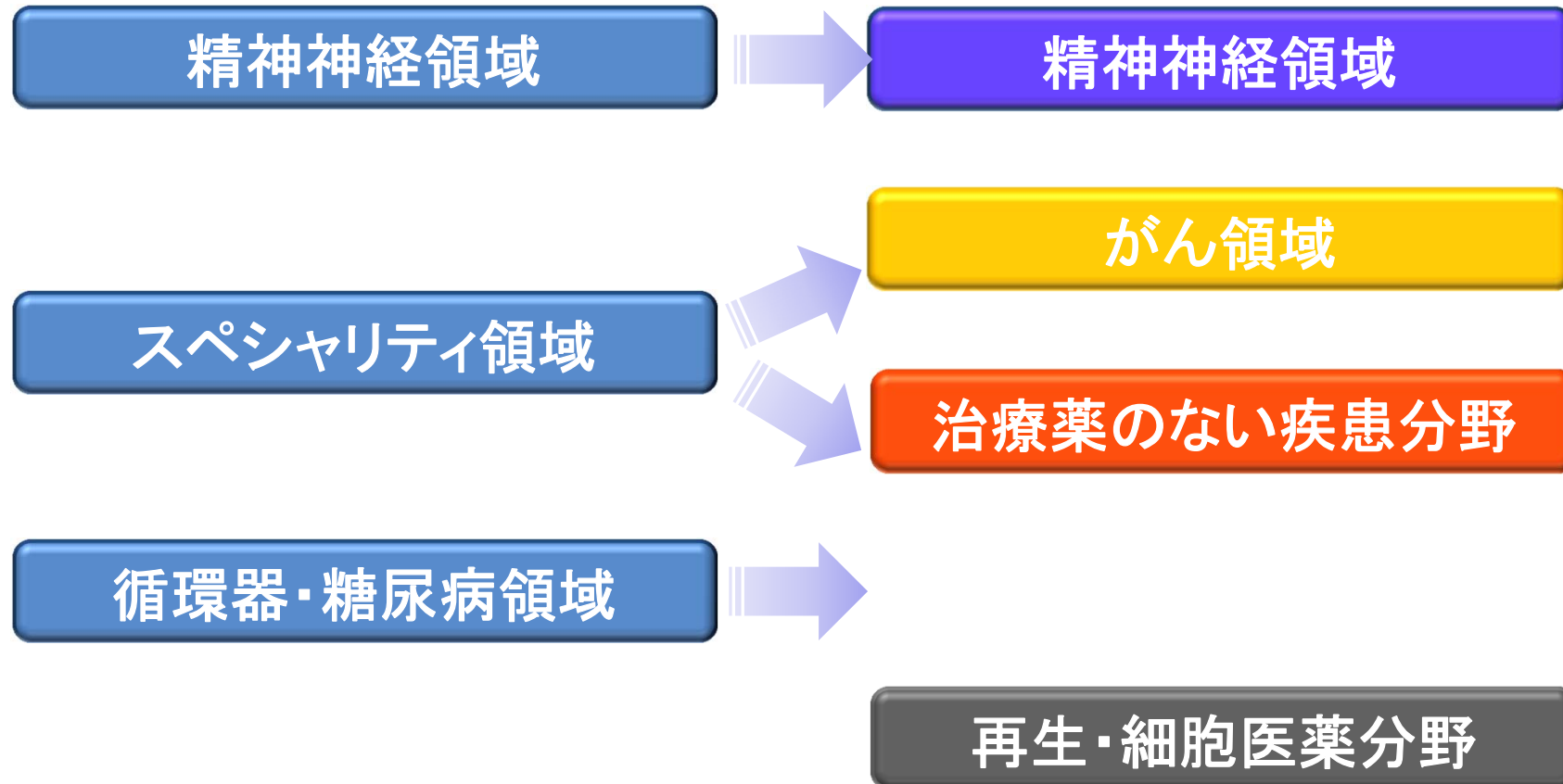
治療薬の創出が望まれる疾患

治療満足度の低い疾患への薬の開発が必要



事業構造の転換へ

アンメットニーズが高い領域に経営資源を集中



研究開発領域

精神神経領域

がん領域

治療薬のない疾患分野

再生・細胞医薬分野

研究開発領域

精神神経領域

従来より大日本住友製薬が強みを持つ疾患領域

- ◆ 注意欠如・多動症(ADHD) SEP-225289
- ◆ 過食性障害(BED) SEP-225289
- ◆ レビー小体型認知症に伴う
パーキンソニズム ゾニサミド
- ◆ 糖尿病合併症 ラニレスタット
- ◆ 神経障害性疼痛 DSP-2230
- ◆ 統合失調症 SEP-363856
- ◆ 統合失調症に伴う認知機能障害 DSP-3748

研究開発領域

がん領域

競争の激しい分野

- ◆ 胃および食道胃接合部腺がん、 BBI608、BBI503
結腸直腸がんなど
- ◆ 骨髄異形成症候群など

DSP-7888

がん創薬研究所を新設
(2012年8月)

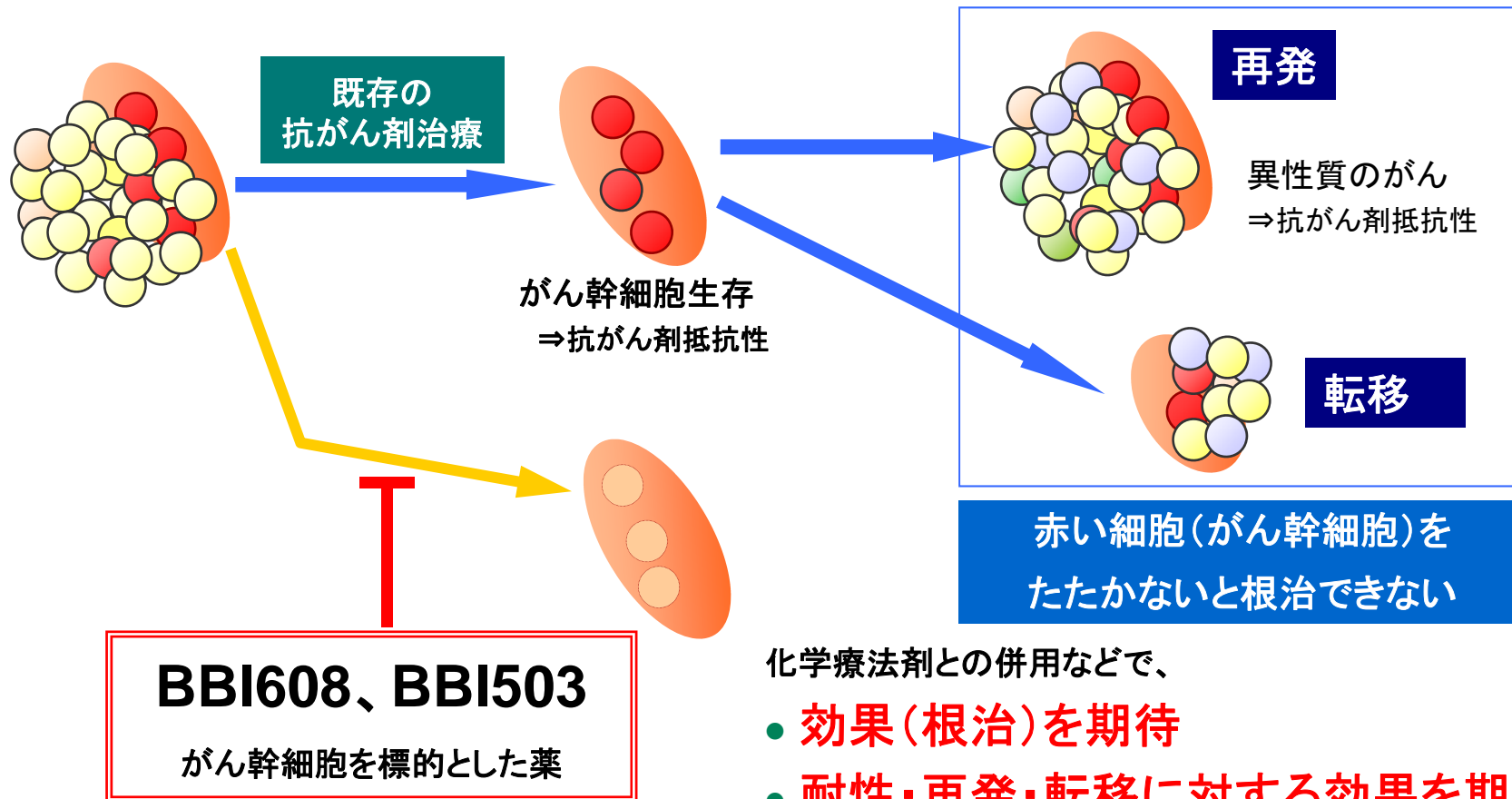
米国でのがん研究開発体制の確立
BBI社買収 (2012年4月)

新薬候補の導入
BBI608、BBI503 (2011年4月)

大阪大学杉山教授らの基礎研究の成果に基づき、
がんペプチドワクチンの研究開発開始
(2010年12月、中外製薬との共同開発開始)

BBI608 / BBI503

がん幹細胞への抗腫瘍効果を期待



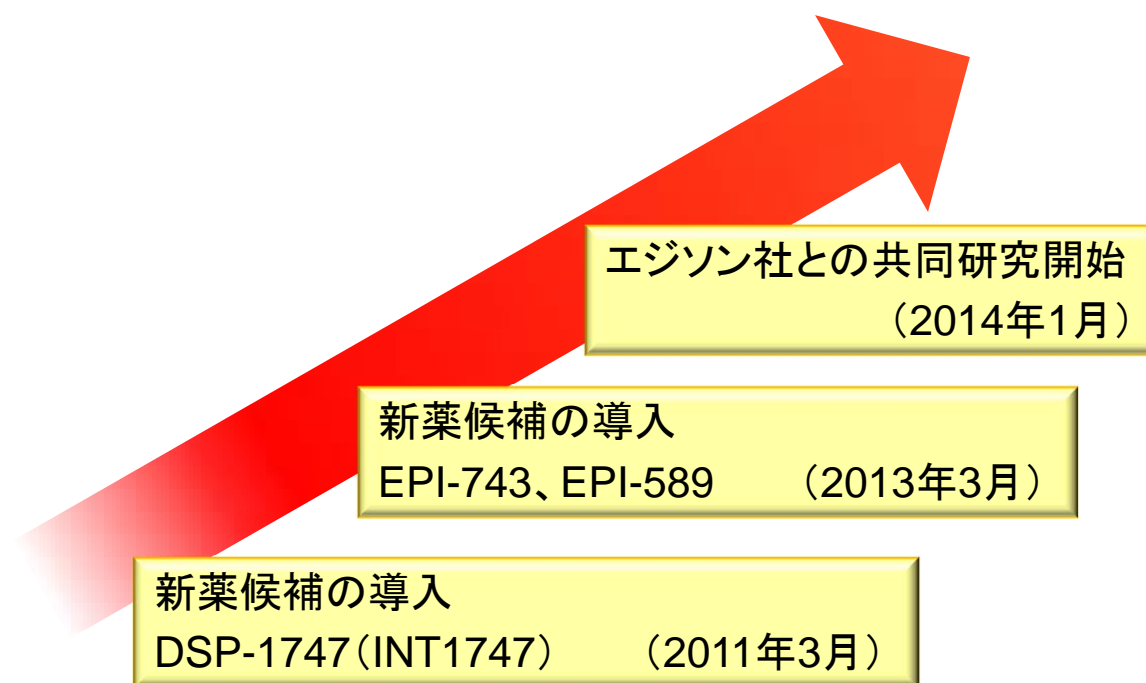
化学療法剤との併用などで、

- 効果(根治)を期待
 - 耐性・再発・転移に対する効果を期待
- 20種以上の臨床試験を実施中

研究開発領域

治療薬のない疾患分野

- ◆ 非アルコール性脂肪肝炎 DSP-1747
- ◆ リー脳症 EPI-743
- ◆ 神経変性疾患 EPI-589



エジソン社との共同研究開始
(2014年1月)

新薬候補の導入
EPI-743、EPI-589 (2013年3月)

新薬候補の導入
DSP-1747 (INT1747) (2011年3月)

研究開発領域

再生・細胞医薬分野

- ・難治性疾患での臨床応用を見据えた研究・開発を推進
- ・iPS細胞技術の実用化を目指す

1990年 ハーバード大学と神経再生共同研究

2001年 慶應義塾大学岡野教授と脊髄損傷に関する共同研究

2001～5年 奈良先端大学山中教授と共同研究

2006年 住友化学が理化学研究所と眼の発生に関する共同研究

新薬候補の導入
SB623 (2010年10月)

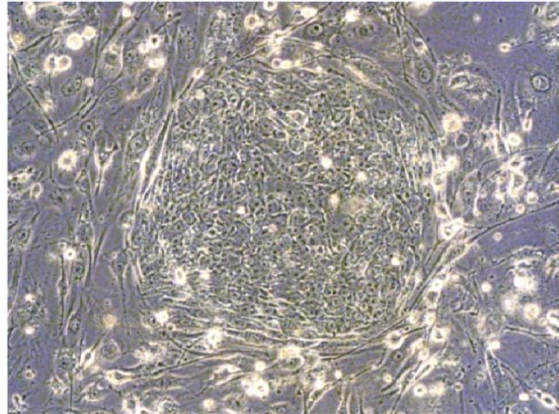
再生医療事業化に向けたヘリオス社との提携 (2013年12月)

再生医療実現拠点ネットワークプログラムの研究開始 (2013年度採択)
(脊髄損傷、パーキンソン病など)

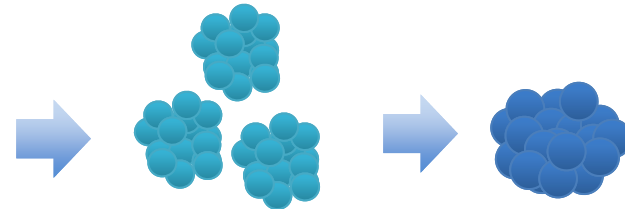
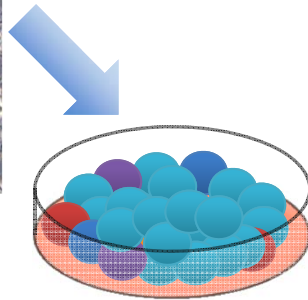
改正薬事法(2014年11月)

CiRAより再生医療に使うiPS細胞を入手(2015年8月)

iPS細胞を用いた再生・細胞医薬



iPS細胞



加齢黄斑変性

パーキンソン病

網膜色素変性

脊髄損傷

網膜色素上皮細胞

ドーパミン神経前駆細胞

視細胞

神経前駆細胞

再生・細胞医薬分野 事業化計画

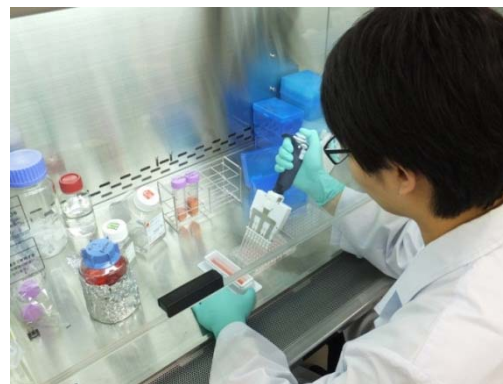
	連携先	予定地域	細胞種	実用化に向けたスケジュール					
				2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
慢性期 脳梗塞	サンバイオ	北米	他家 MSC	Ph2b			Ph3		承認目標
加齢黄斑 変性	ヘリオス 理化学研究所	国内	他家 iPS細胞	臨床研究 (自家/他家)			医師主導治験		承認目標
パーキン ソン病	京都大学iPS 細胞研究所 (CiRA)	global	他家 iPS細胞	臨床研究(自家)			医師主導/企業治験		
網膜色素 変性	理化学研究所	global	他家 iPS細胞				医師主導治験		
脊髄損傷	慶應義塾大学 大阪医療センター	global	他家 iPS細胞				臨床研究(他家)		

再生・細胞医薬のための研究拠点

- 病院や政府機関などの企業・団体が相互に連携することにより、医薬品や再生医療などの臨床応用・実用化に取り組んでいる。
- 最先端の情報を入手できる環境を生かした研究活動を推進。



神戸再生・細胞医薬センター
(@神戸市医療産業都市)
2014年4月



製品上市計画

地域	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019～2021年度
国内		※ ルラシドン (統合失調症) ※ EPI-743 (リー脳症)	ラニレスタット (糖尿病合併症) BBI608 (胃または 食道胃接合部腺がん)	ルラシドン (双極I型障害うつ/ 双極性障害メンテナンス) ロナセン (統合失調症/ 経皮吸収製剤) トレリーフ (レビー小体型認知症に 伴うパーキンソニズム) BBI503 (固形がん)	BBI608 (結腸直腸がん等) DSP-7888 (固形がん、血液がん) DSP-1747 (NASH) DSP-6952 (便秘型IBS/慢性便秘) iPS細胞由来RPE細胞 (加齢黄斑変性)
米国	アプティオム (てんかん/単剤)	ラソーダ (双極性障害 メンテナンス)	BBI608 (胃または 食道胃接合部腺がん) SUN-101 (COPD)	dasotraline (ADHD) BBI503 (固形がん)	SB623 (慢性期脳梗塞) DSP-2230 (神経障害性疼痛) SEP-363856 (統合失調症) dasotraline (BED) BBI608 (結腸直腸がん等) DSP-7888 (固形がん、血液がん)
中国		ロナセン (統合失調症) カルセド (小細胞肺がん)		ルラシドン (統合失調症)	
英国			ルラシドン (双極性障害)		

 : 精神神経領域
 : がん領域
 : 肝臓/消化器領域
 : 呼吸器領域
 : 新有効成分
 : 適応症等追加

※ 開発方針を検討中

導入・提携の推進

自社創薬に加えて導入や提携をより推進・強化

◆ ビジネス ディベロップメント部 (2014年12月～)

日米一体運営体制でグローバルにおけるM&A、導出入、提携を実施

◆ オープンイノベーション開発室 (2014年12月～)

初期臨床段階までの新薬候補化合物や最先端技術に関する情報収集・評価を行い、初期臨床段階までの化合物の導入や提携などを推進

公募型 オープンイノベーション活動

名称: **PRISM** (**P**artnership to **R**ealize **I**nnovative **S**eeds and **M**edicines)

目的: 社内研究のみでは達成困難な、革新的創薬シーズやアイデア、技術を導入する

募集期間: 2015年7月6日～8月31日 (2015年11月30日までに最終の選考結果を通知)

特長: 研究費(500万円/案件)に加え、化合物ライブラリ、創薬技術等の供出を含んだ戦略的提携

事業構造の転換へ

アンメットニーズが高い領域に経営資源を集中



CSR経営の推進



FTSE4Good

大日本住友製薬(株)は、社会において製薬企業が果たすべき役割や責任を重視し、CSR 経営の推進に取り組んでいる。社会的責任投資の代表的な指数である **"FTSE4Good Index Series"** の対象銘柄に選定されている。

法令・社会倫理の遵守

- コンプライアンス違反の撲滅
- 透明性ガイドラインの遵守

高品質・安定供給の取組

- あらゆる事業プロセスにおいて、高品質を維持するためのガイドラインの整備
- 災害時の安定供給の対策

環境・社会貢献の取組

- 廃棄物削減や環境保全への取組
- 国内外における各種支援の継続実施

ダイバーシフィケーションの推進

- 幹部社員の女性比率を2020年に現在の2倍にするための取組
- 在宅勤務等の諸制度の積極的導入

本日のご説明内容

1. 医薬品業界
2. 大日本住友製薬の概要
3. 成長戦略
 - ◆ マーケティング
 - ◆ 研究開発
4. **業績予想と株主還元**

2015年度 業績予想

金額単位:億円

	2014年度実績	2015年度予想	増減額
売上高	3,714	4,010	296
売上原価	1,012	1,035	23
売上総利益	2,701	2,975	274
販売費及び一般管理費	2,469	2,705	236
販売費・一般管理費	1,756	1,810	54
研究開発費	713	895	182
営業利益	233	270	37
経常利益	233	265	32
親会社株主に帰属する当期純利益	154	180	26
E B I T D A	431	478	47

【為替レート】

2014年実績: 1\$=109.8円 1元=17.7円

2015年予想: 1\$=120.4円 1元=19.5円

株主還元

配当方針

2015年度は安定配当を継続
今後、業績向上に連動して増配

	2013年度(実績)	2014年度(実績)	2015年度(予定)
1株当たり配当金(円)	18.00	18.00	18.00
連結配当性向(%)	35.7	46.3	39.7

〈参考〉

純資産配当率(%)	1.9	1.7	1.6
-----------	-----	-----	-----

(ご参考)

株価: 1,532円 配当利回り:1.17% 時価総額 約6100億円 (2015年8月17日 現在)

自己資本当期純利益率(ROE)

年度	13年度(実績)	14年度(実績)	15年度(予定)
自己資本当期純利益率(%)	5.4	3.6	4.0

※(ご参考) 2017年度営業利益(目標)800億円から想定する2017年度のROEは、9%程度

財務戦略

キャッシュの創出

営業活動による
キャッシュ・フロー

資産圧縮

レバレッジの活用

戦略的投資

研究開発、新規導入提携、
M&Aなど

株主還元

安定配当に加え、業績向上
に連動した増配

有利子負債返済

借入金、社債

個人投資家様向けIR活動のご紹介

WEBサイト:株主・投資家の皆様へ

<http://www.ds-pharma.co.jp/ir/index.html>

決算資料などの情報や説明会の動画を掲載(実施後3ヶ月公開)



個人投資家様用 IRニュースメール配信

ご登録いただきますと、当社のニュースリリースや、IR情報等の新着情報をe-mailにてお知らせします。

クリック

IRニュースメール配信

▶ 配信登録はこちら



http://www.ds-pharma.co.jp/ir/p_investors/mailmagazine/index.html

注意事項

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

